

六甲山系学習ゾーン検討委員会 設立趣意

六甲山系は、およそ100万年前に誕生した東西約30km、南北約8kmの連山です。明治初期には、樹木の伐採により山頂までほとんど草木のない山であった六甲山系も、現在では約100年に及ぶ植林などの取り組みにより、多様な動植物の生息する豊かな自然が回復し、都会に隣接する国立公園として、神戸・阪神間の市民にとってかけがえのない自然を提供しています。

豊かな自然を提供してくれている六甲山系ですが、その地形、地質特性などから、山麓に広がる神戸の街に、たびたび大きな土砂災害をもたらしました。近年では、昭和13年、36年、42年の大豪雨、阪神・淡路大震災に伴う土砂災害などにより多くの尊い人命が失われています。

六甲砂防事務所は、昭和13年の大水害を機に設立され、国土の保全と市民の安全確保に向けて、砂防えん堤などの砂防施設の整備やグリーンベルトの整備などを進めてきました。しかし、災害の発生を完全に防ぐことは困難であり、災害発生時の被害を軽減するためには、市民の主体的行動や地域コミュニティの醸成などが重要となります。

この認識の下、警戒避難体制の整備を進めるとともに、住民の砂防事業に対する理解や防災意識の向上を目的として、小学生を中心とした地域住民への出前講座や、ホームページによる事業紹介などの啓発活動にも取り組んできました。今後も、こうした啓発活動を進めていくことが重要であると考えています。

六甲砂防事務所では、これまでの取り組みをさらに前進させるため、六甲山系の砂防施設や六甲山系の成り立ちを示す地層の露頭、過去の災害の痕跡、都市部発展の歴史を示す施設などを活用し、次代を担う児童・生徒等を主対象とした「六甲山系の土砂災害と地域の自然・歴史や文化との関係」を学習する場〈学習ゾーン〉を整備したいと考えています。

本検討委員会は、学習ゾーン整備に向けた下記の項目などについて検討を行い、六甲砂防事務所への提言としてとりまとめることを目的として、学識経験者、郷土史家、教育関係者などにより構成するものです。

- ・学習テーマ…… 学習の着眼点やプログラム、ルート設定などについての検討。
- ・学習地点等…… 学習の教材となる地層の露頭や史跡などの活用方策についての検討。
- ・施設整備…… 案内サインや休憩施設など、学習活動を展開するルートの利便性、魅力を向上させる施設の整備方針についての検討。
- ・維持管理方策… 学習地点等や計画施設の維持管理についての検討。
- ・今後の展開…… 学習ゾーンの利用促進方策や他流域への展開などについての検討。